

令和3年9月の解説（週間天気予報）

【9月の天候状況】

上旬は、北日本では、オホーツク海高気圧が張り出して晴れた日が多かったため、降水量は少なく、日照時間は北日本日本海側でかなり多く、北日本太平洋側で多くなりました。一方、東日本と西日本では、前線が停滞しやすく、曇りや雨の日が多くなり、降水量は多く、日照時間は東日本太平洋側でかなり少なく、東日本日本海側と西日本で少なくなりました。沖縄・奄美では、太平洋高気圧に覆われて晴れた日が多く、日照時間はかなり多く、降水量は少なくなりました。気温は、北日本と東日本ではオホーツク海高気圧からの冷たい空気の影響を受けやすかったために低く、特に東日本では寡照の影響もあってかなり低くなりました。一方、沖縄・奄美では暖かい空気に覆われ、晴れた日が多く、高くなりました。

中旬は、北日本と東日本日本海側では、高気圧と低気圧が交互に通過して、天気は数日の周期で変化しましたが、日本の北から高気圧が張り出して晴れた日が多く、日照時間は北日本日本海側でかなり多く、北日本太平洋側で多くなりました。降水量は北・東日本日本海側で少なくなりました。東日本太平洋側と西日本では、前線や、17日に福岡県に上陸し18日にかけて東進した台風第14号の影響で曇りや雨の日が多くなり、西日本太平洋側を中心に大雨となった所もありましたが、19日には高気圧に覆われて晴れた所が多くなりました。このため、降水量は西日本太平洋側で多く、日照時間は西日本太平洋側でかなり少なく、東日本太平洋側と西日本日本海側で少なくなりました。沖縄・奄美では、11日から13日にかけて台風第14号が通過したため大雨や大荒れとなった所があり、降水量は多くなりましたが、その後は高気圧に覆われて晴れた日が多くなりました。気温は、北日本では北からの冷たい空気の影響を受けやすく低かった一方、沖縄・奄美では暖かい空気に覆われて高くなりました。

下旬は、北日本、東日本、西日本では、高気圧と低気圧が交互に通過して、天気は数日の周期で変化しましたが、移動性高気圧に覆われやすく、晴れた日が多くなりました。22日から23日にかけては北日本を通過した低気圧の影響で雨となりました。26日頃は上空の寒気や湿った東よりの風の影響で東日本を中心に雨が降り、大雨となった所がありました。30日は北日本を通過した低気圧や日本の南を北上した台風第16号の影響で北日本と東日本太平洋側を中心に雨となりました。沖縄・奄美では、高気圧に覆われやすく、晴れた日が多くなりました。このため、日照時間は沖縄・奄美でかなり多く、北日本日本海側と東日本及び西日本で多くなりました。沖縄・奄美の日照時間は平年比151%で、9月下旬として1961年の統計開始以降1位タイの多照となりました。また、降水量は西日本太平洋側でかなり少なく、北・東日本太平洋側、西日本日本海側及び沖縄・奄美で少なくなりました。気温は、北日本と東日本では、22日と30日に南から暖かい空気が流れ込んだため高くなりました。西日本と沖縄・奄美では、暖かい空気に覆われやすく、かなり高くなりました。

【9月の検証結果】

「降水の有無」の全国平均の適中率(3～7日目平均)は、例年値^(注)よりも11ポイント高い78%でした。地方別の適中率では、すべての地方で例年値を上回りました。

最高気温の予報誤差(2～7日目平均)は、全国平均で例年値よりも0.3℃小さい2.0℃で、北海道、東北、関東甲信、東海、北陸、近畿、中国、四国、沖縄の各地方で例年値よりも小さくなりました。また、最低気温の予報誤差(2～7日目平均)は、全国平均で例年値よりも0.3℃小さい1.6℃で、沖縄を除く各地方で例年値よりも小さくなりました。

(注) 例年値は気象庁HP(予報精度検証)内「月毎の精度の例年値」を参照してください。

【11月の週間天気予報の利用にあたって】

11月は、冬型の気圧配置となる頻度が次第に増え、北日本や日本海側の地方では雨またはみぞれや雪の日が多くなり、太平洋側の地方では晴れの日が多くなります。また、冬型の気圧配置では冷たい北よりの

風が吹くため、気温が下がりやすくなります。週間天気予報からは、雪の降りやすい日や気温の下がる日を知ることができますので、雪への備えや健康管理などにご活用ください。